

能勢地域小中高一貫教育・連携型小中高一貫教育

第8回 研究発表会を開催しました。

11月16日（月）、町立西中学校において、能勢地域小中高一貫教育・連携型小中高一貫教育 第8回研究発表会を開催しました。

この発表会は、能勢町の小中高一貫教育の成果を発信するとともに、参加者等から幅広い意見をいただき、小中高一貫教育の一層の改善充実をはかることを目的とし、今回は「能勢町教育イノベーションプロジェクト事業」の成果発表と併せて開催しました。

第1部は、西中学校の能勢町教育イノベーションプロジェクト事業に係る授業、西中学校と小学校や高校（本校）との連携、さらには小学校とNPOとの連携による授業を公開しました。本校は、西中学校との連携による中学2年生を対象とした「高校生に学ぶ」授業を行いました。この授業の特徴は、高校生が先生となり、中学生を教えることにあります。つまり、高校での「産業社会と人間・総合的な学習の時間」「農場の授業」「国際交流・希望者進学講座」「クラブ活動」など、本校の特色ある様々な取り組みについて自分たちでまとめ、中学生に伝えていくものです。高校生にとり、多少のプレッシャーはありましたが、後輩たちの前でうまく授業を行うことができました。また、中学生にとり、能勢高校で学ぶ先輩たちの様子や高校生活が伺える貴重な機会となり、12月10日（金）の本校体験入学への導入となりました。

体育館で行われた第2部では、西中学校の先生方の発表に加え、本校2年生が「国際理解教育・ユネスコスクールについて」発表しました。本校の国際理解教育の取り組み内容やユネスコスクールとしての活動をうまく紹介してくれました。また、引き続き、大阪府教育委員会教育振興室高等学校課松本昇参事から指導講評をいただきました。さらに、能勢町の教育に深く関わっていただいている、京都造形芸術大学の寺脇研教授からは、「生涯学び続ける子に・・・！町全体が学びのフィールド」をテーマとした記念講演を通じ、能勢町の小中高一貫教育に力強いエールを送っていただきました。



能勢高生が先生となった「高校生に学ぶ」授業



「国際理解教育・ユネスコスクールについて」発表



寺脇研教授による記念講演